

タイトル	私たちが星槎で剣道を学ぶ意味		
情報源	月刊 剣道時代	日付	H30年 9月27日(木)
発信担当(事業所)	(星槎学園 星槎国際高等学校)	備考	



私たちが星槎で 剣道を学ぶ意味

星槎学園高等部 (全日・技能連携校) 星槎国際高等学校 (広域通信・単位制高校)

星槎グループは約半世紀にわたり「共生・共育」をテーマに、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」の三つの約束を胸に学校・スポーツ団体などをつかってきました。

その中の一つである星槎学園高等部に通う剣道部員たちがいます。彼らは前ページで紹介された、全国高等学校定時制通信制大会に出場経験をもつ選手たちです。それぞれが将来の夢を持っていて、理想に近づくための勉強を星槎学園で行ないながら、剣道をがんばってきました。

剣道と夢への準備が両立できる

星槎学園高等部は、昭和60年に文部大臣より指定を受けた技能教育施設です。星槎国際高等学校(広域通信制高校)との連携教育により、高等学校普通科の卒業資格を取得できます。つまり、星槎学園高等部に入学すると同時に、星槎国際高等学校にも入学することになります。生徒一人一人の個性を生かし、未来に進んでいく力を養える、魅力ある豊かな人間性の育成をめざしており、たとえば、国語、地歴、公民といった必修科目のほかにも、体験学習や資格を取るための学習、そして、アルバイトで単位を取得できる制度もあります。現在、47都道府県、世界54カ国を正式な教育区域とする単位制・通信制高校であり、5500人が学んでいます。

そうした、個性に応じた学校スタイル

に魅力を感じて入学してきた剣道部員たちがいます。彼らは、毎日学校に通いながら剣道と勉強を両立させてきました。生活スタイルは全日制と同じです。

全国高等学校定時制通信制大会で3位入賞を果たした神奈川Bのメンバーのひとり、守山裕稀さん(高3・神奈川県出身)は、星槎学園で剣道をやりながら勉強をしたい、と入学を希望しました。「中学校で剣道を始めた高校でも続けようと思ひ、星槎で剣道と勉強の両立をしようと考えました。今は、就職を見据えて商業課程の職業実習で事務、電気基礎など様々なことを学びながら剣道を続けています。すごく充実している毎日です」(守山さん)

守山さんと同じ神奈川県相模原市出身の大橋美沙さん(高3)は、昨年東京都個人戦で優勝して同大会に出場した実力をもっています。「剣道は小学4年生からずっと続けていました。星槎では丁寧に勉強を教えてくださいました。以前から学んでいた美術のゼミと剣道を両方続けることができました。とてもいい環境だと思っています」(大橋さん)

「ここは、私たちが輝くための場所。将来なりたい自分になるための勉強をしながら、剣道と両立してきました。」

東京都青梅市出身の河野匠毅さん(高2)は青梅錬心館で剣道を始め、中学校時代は青梅市の大会でも個人戦で優勝しました。

「実は一度都内の学校に入学したのですが、自分に合わないと感じて、それで兄が通っていた緑で星槎国際高校八王子学習センターへの転校を決めました。そこで、先生に「今度剣道の大会があるから出てね」と言われたことがきっかけで、あれよあれよという間に星槎でも剣道を続けることになりました。星槎では自分が興味をもった勉強をできるので、すごく充実しています。また、自立にともなう責任が求められる校風にも、魅力を感じています。今は将来の就職に向けてビジネスマナーについて学びながら剣道をしています」(河野さん)

それぞれ、全国大会への出場を果たしながら、興味のある学業について積極的に学ぼうと努力を重ねていました。

星槎の剣道部で得たもの

守山さんは、顧問の久保木先生から太鼓判を押されるほどの剣道好き。中学校

の剣道の授業では、久保木先生の助手をつとめるほか(授業の一環)、出稽古をするなど、稽古熱心。

「剣道は厳しいけど、仲間もできるし、大会にも出て、他の高校の友達もできて楽しいです。負けることもあるし、うまくいかない時にもあるけど、前に前を攻める剣道を大切にしたいです。剣道で得た、礼法や大きな声なども、将来役に立つんじゃないかと思っています」(守山さん)

大橋さんは2年生の時、八王子学習センター顧問の坂本先生と二人で朝練習を実施していました。高校に入ってから好んで続けてきた剣道部ですが、1年生の時は自信が持てず定時制通信制大会には出場しませんでした。しかし朝練習を始めることで少しずつ自分に自信を持つことができ、「試合で勝ちたい」という気持ち芽生え、努力することができました。

「朝練習を週4回。朝練習は大変というより楽しかったです。自分ができることがどんどん増えたので、もっと練習したいという気持ちでした」(大橋さん)

特訓の成果があつて見事東京都大会で個人優勝、全国大会に出場しました。

「初めてだったので勝った時は嬉しくて涙が出ました。先生方も喜んでくれたこともとても嬉しかったです」(大橋さん)

河野さんの場合は、星槎への入学後剣道を続け

るとははっきりと決めていませんでしたが、先生方の勧めで剣道部に入部後、魅力が再確認できました。

「部員は4人。先生方とはほぼマンツーマンで見てもらえて、あらためて剣道の魅力を知ることができました。久保木先生からは剣道の基本の大切さ、坂本先生からは試合に対する姿勢や技術などを学びました。先生から教わるのが楽しくて、時間があつという間に感じられるほどです。本当に巡り合わせですが、恩師という存在に出会えたことを、すごく感謝しています」(河野さん)

星槎で剣道を学べたことは、それぞれにとって大きな財産になっています。現在、守山さんは就職活動の真っ最中。剣道で培ったガッツを武器に希望の企業へアピールしています。大橋さんは美術の勉強を本格的に行なうため、剣道を少しお休みし、勉強に専念。夢は、色鉛筆を主につかっていたイラストレーターです。これから進学に向けて受験の準備をしているそうです。2年生の河野さんは、現在自分のやりたいことを模索すべく勉強と剣道を両立させています。河野さんは、こんな言葉を残してくれました。

「ここでは勉強をしようと思えば思うほど密度の濃い内容が得られると思っています。自由に伴う責任を社会の経験をしていけると思います。将来も剣道を続け、今まで得たものを後進に伝えていけるようになりたいです」(河野さん)